



1 令和7年度「目指す生徒の姿」

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による新たな価値を創造できる資質・能力の育成(3年次)

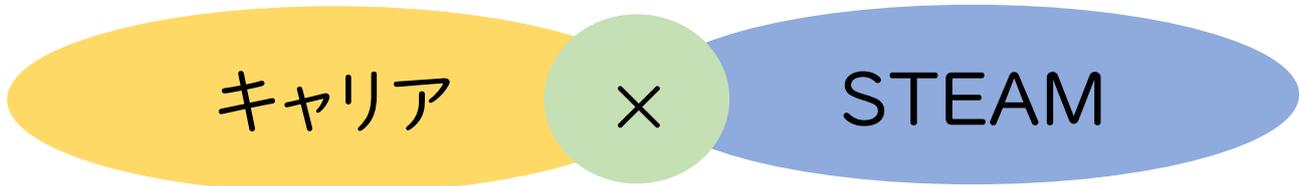
目指す生徒の姿の具現に向けて育成する力

- 人間関係形成・社会形成能力
- 自己理解・自己管理能力
- 課題対応能力
- キャリアプランニング能力

(キャリア教育において育成すべき四つの基礎的・汎用的能力)

3 「目指す生徒の姿」に迫り、全校研究テーマを具現するカリキュラムと重点

I. 三つのカリキュラム・アプローチ



【あさひのプロジェクト<プッシュ・アプローチ>】
 地域や実社会と関わり、社会の一員としての自覚や将来への見通しをもてる学び

【あさひのラーニング(新設教科)<プル・アプローチ>】
 各教科等の学びを、実生活・実社会での問題発見・解決に生かしていく教科横断的な学び
 【学びの概要】教師が、複数教科の学びが生かされる教科横断的な学びを構想し、その中で、生徒に「探究の方法」が身に付くような学習を開発する

【教科学習(三つのアプローチの基盤となるもの)】
 各教科等の「見方・考え方」を働かせて、資質・能力を身に付けていくことを「各教科等の本質」と捉え、日々の授業において、「各教科等の本質(おもしろさ)」に迫る授業を実践する

II. 研究の重点

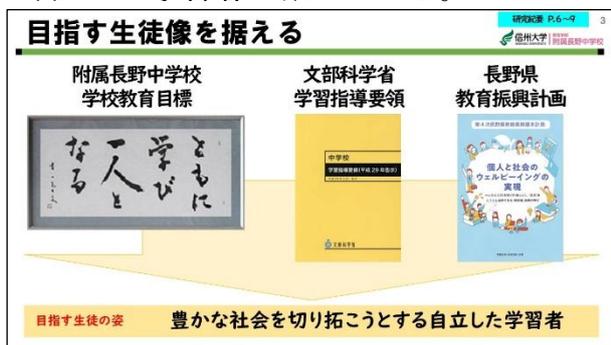
- 【各教科等の本質に迫るための重点】
問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする
- 【探究的な学びの本質に迫るための研究の重点】
実生活・実社会の諸課題の問題発見・解決に向かう中で、各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせながら、自分の可能性や価値を認識し、社会に生かそうとすることができるようになる

4 令和7年度の研究の具体

- ・教科学習における探究的な学びについて明らかにする
- ・あさひのラーニングによる教科横断的な学びの評価について明らかにする。
- ・あさひのプロジェクトの探究的な学びの中で、どのように各教科等の「見方・考え方」が働くのかを明らかにする。

5 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」の設定理由及び捉え

本校が目指す生徒像を据えるために、本校の学校教育目標の生徒像に加え、文部科学省の学習指導要領が目指す生徒像、長野県が目指す生徒像を踏まえ、本校職員の願いと本校生徒の実態から、令和5年度より本校が目指す生徒の姿を**豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者**と据えている。



これまでの研究で見えてきた成果と課題を踏まえ、目指す生徒を具現するための学びを、キャリア教育とSTEAM教育に求めた。キャリア教育では、一人一人の社会的・職業的自立を目指し、育成すべき四つの基礎的・汎用的能力が提示されている。

- | | |
|----------------|---------------|
| ○人間関係形成・社会形成能力 | ○自己理解・自己管理能力 |
| ○課題対応能力 | ○キャリアプランニング能力 |

上記の四つの基礎的・汎用的の育成を充実させるための視点を明確にするために、科学、技術、工学、芸術・リベラルアーツ、数学の五つの分野を総合的に学ぶSTEAM教育に着眼した。なお、本校はSTEAM教育を、以下の通りに捉えている。

OSTEAM教育…各教科等の見方・考え方を自在に働かせながら、教科の枠を超えて実生活・実社会の諸課題を解決する学び

このキャリア教育とSTEAM教育の二つの学びを関連付けていくことを目指して、「キャリア×STEAM」と表記し、令和5年度より本校の全校研究テーマを「**キャリア×STEAMの学習による新たな価値を創造できる資質・能力の育成**」と据え、その具現を図るカリキュラム編成を行っている。

6 「探究」によせた令和7年度の研究内容

(1) 教科学習と探究的な学びをつなぐ学び

本校のこれまでの実践から、教科学習とあさひのプロジェクト(総合的な学習の時間)の二つの学習をつなぐ教科横断型の学習が、「新たな価値を創造できる資質・能力」の育成につながり、目指す生徒の姿の具現に迫る可能性が見えてきた。

そこで、各教科等の授業とあさひのプロジェクトをつなぐ、教科横断型の学習「あさひのラーニング(学際的な学習の時間)」を、文部科学省「教育課程特例校」指定を受けて令和6年度より全学年で新設し、実施している。本校において行っている三つのアプローチについては、以下の通りである。

- | |
|--|
| ○教科学習
学習指導要領に基づき、各教科等の「見方・考え方」を働かせた生徒主体の授業の充実
各教科等の本質(おもしろさ)を味わえる毎時間の授業づくり |
| ○あさひのラーニング(新設教科)〈プル・アプローチ〉
各教科での学びを、実生活・実社会での問題発見・解決に生かしていく教科横断的な学び |
| ○あさひのプロジェクト〈プッシュ・アプローチ〉
地域や実社会と関わり、社会の一員としての自覚や将来への見通しをもてる学び |

そして、「教科学習」「あさひのラーニング」「あさひのプロジェクト」の三つのアプローチによる学習における探究的な学びの具現を目指すことを、全職員で共通理解し、実践研究を進めている。

(2) 本校における探究的な学びの捉え

白井 (2022) は、探究には様々なレベルがあると述べている (図 1)。探究のレベルをカリキュラム全体で考えたとき、教科の授業はレベル 1、総合的な学習の時間の授業はレベル 4 といった認識になりやすく、レベル 2～3 がカリキュラムに位置付いていないことが懸念される。本来、探究は、総合的な学習の時間の授業だけでなく、教科の授業にも当てはまるはずである。そのため、本校では、探究のレベル 1～4 が位置付

「探究」のレベル	問い	手続	解法
1. 確認のための探究 前もって結果が分かっている場合に、活動を通じて原理を確認する	✓	✓	✓
2. 構造化された探究 与えられた手続にしたがって、教師が示した問いについて実験する	✓	✓	
3. 指導された探究 生徒が自分でデザインしたり、選択した手続を用いて教師が示した問いについて実験する	✓		
4. オープンな探究 生徒がデザインまたは選択した手続を用いて、生徒自らが立てた問いについて調査する。			

図 1 Banchi&Bell, 2008 より白井氏が作成した「探究」のレベル

いている学習が探究的な学びであると捉えた。研究 2 年次までの授業実践について、図 1 に示されているものを以下のように解釈をし、探究のレベルに基づいて分析した。

問い…学習問題・問い	手続き…追究する方法	解法…考察・まとめ
------------	------------	-----------

その結果、教科学習において、生徒自らが学習問題・問いを設定し、追究する方法を決め出し、考察やまとめをしていく場面があることから、教科学習においても探究のレベル 1～4 が位置付く探究的な学びがあることが見えてきた。

(3) 探究的な学びをより豊かにするための「探究の方法」

一方で、あさひのプロジェクトにおける探究的な学びでは、問いの設定や見通しをもって活動計画を立てていくことに対して、困難さを感じている生徒の姿があった。このことから、生徒が三つのアプローチを通して、「探究の方法」を身に付けていくことで、探究的な学びがより豊かになるのではないかと考えた。本校における「探究の方法」は以下の通りである。

<p>探究的な学びをより豊かにするための「探究の方法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせることができる ○問いを立てることができる ○仮説、予想を立て、見通しをもつことができる ○社会や他者が求めていることを調査することができる ○調査を基にして発想することができる ○発想を基にして実践を積み重ね、改善することができる
--

(4) 研究 3 年次の取り組み

研究 2 年次までの成果と課題を踏まえ、教科学習と探究的な学び、さらには探究のレベルの関係性を整理した (図 2)。研究 3 年次では、教科学習における探究的な学びと、あさひのラーニングによる「探究の方法」が身に付く教科横断的な学びの学習到達度の評価について明らかにする。さらに、あさひのプロジェクトの探究的な学びの中で、どのように各教科等の「見方・考え方」が働いているのかを明らかにする。

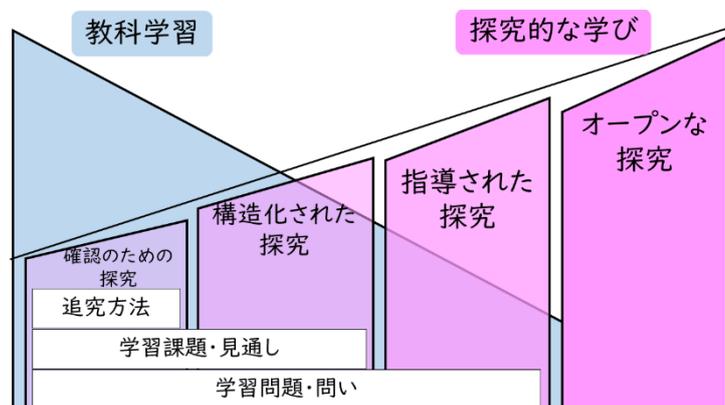


図 2 「教科学習」「探究的な学び」と探究レベルの関係図